

(一) デエダラボッチの井戸 (神明ヶ谷戸)

デエダラボッチはデツケエ男でよう。頭が雲中へ入って見えねえ位なアだアと。

ある日、デエダラボッチは、ドケエラからか蔓ウ持つてきてよう。ソンドもつて浄土山を背負つて、踏ん張つた足跡が、神明ヶ谷戸にアンデエダラボッチの井戸なつたアだアと。

背負つてた浄土山は、途中で藤の蔓がヒツチギレちやつて、坂本まで来たアとこで、ドサツとソケへおつこつちやつた。ソン時、切れた藤ツ蔓を向山にホツポリ投げちまつたんで、浄土山にやあ藤がなくなつて、向山にやあイラ生えんだアとよう。

ここのデエダラボッチの井戸は、いくら日照りでも水が絶えなくつてよう。芋窪の者も「水ウくれ」ツツツテ来たアね。

デエダラボッチの井戸は、他にもあつてよう。赤堀じゃあ、「ビイシヤラ井戸」ツつてゆつてんなあ。ビイシヤラ、ビイシヤラツて水が流れてンから、そうゆうふうに呼バツテンだんべえ。

※1 デエダラボッチ 大多羅法師という巨人で、全国的にその伝説がある。

2 デツケエ 大きな
3 ドケエラからか どこからか
4 蔓ウ 蔓を
5 ソンデ それで
6 井戸なつた 井戸になつた
7 ヒツチギレちやつて ちぎれて
8 ソケへ そこへ
9 ソン時 その時
10 藤ツ蔓 藤の蔓

11 ホツポリ投げ ほうり投げ
12 イラ いっぱい
13 生えんだ 生えるのだ
14 ツツテ と言つて
15 他にも 坂本・池の沢・赤堀・山王前など
16 流れてン 流れている
17 呼バツテン 呼ばれている

武蔵村山市教育委員会編

『武蔵村山の昔がたり—村山ことばによる口頭伝承—』より

